北雪美談

時代鏡　廿二

へ 13
3756
8

三藐院殿御筆

唐土もきた野乃
神ゝとは
神ゝのまゝ歌
梅ゝくゝ

慶長庚戌仲和廿五日

時代鏡
廿貳編
上冊

妻乃根
國貞画

詞曲
梅枝

北雪美談
時代加々見
廿二編上
廿二編下
春水仙國貞画
芳林堂文庫

北雪美談時代加々見

廿三編上

幸吉

廿三編下

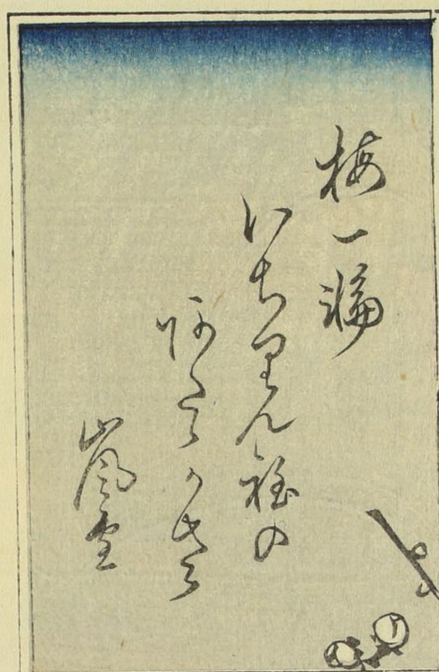
國貞画

芳盛屋義樹

北雪美談時代鏡
廿四編上
廿四編下
若林文庫
歌川国貞画

へ13
3756
8

時代鏡二拾四編下之巻



梅一瀉

玄魚

為永春水作
一書為國貞画
彩林堂蓬莱輝

中宮寺
中宮寺之印

[illegible]

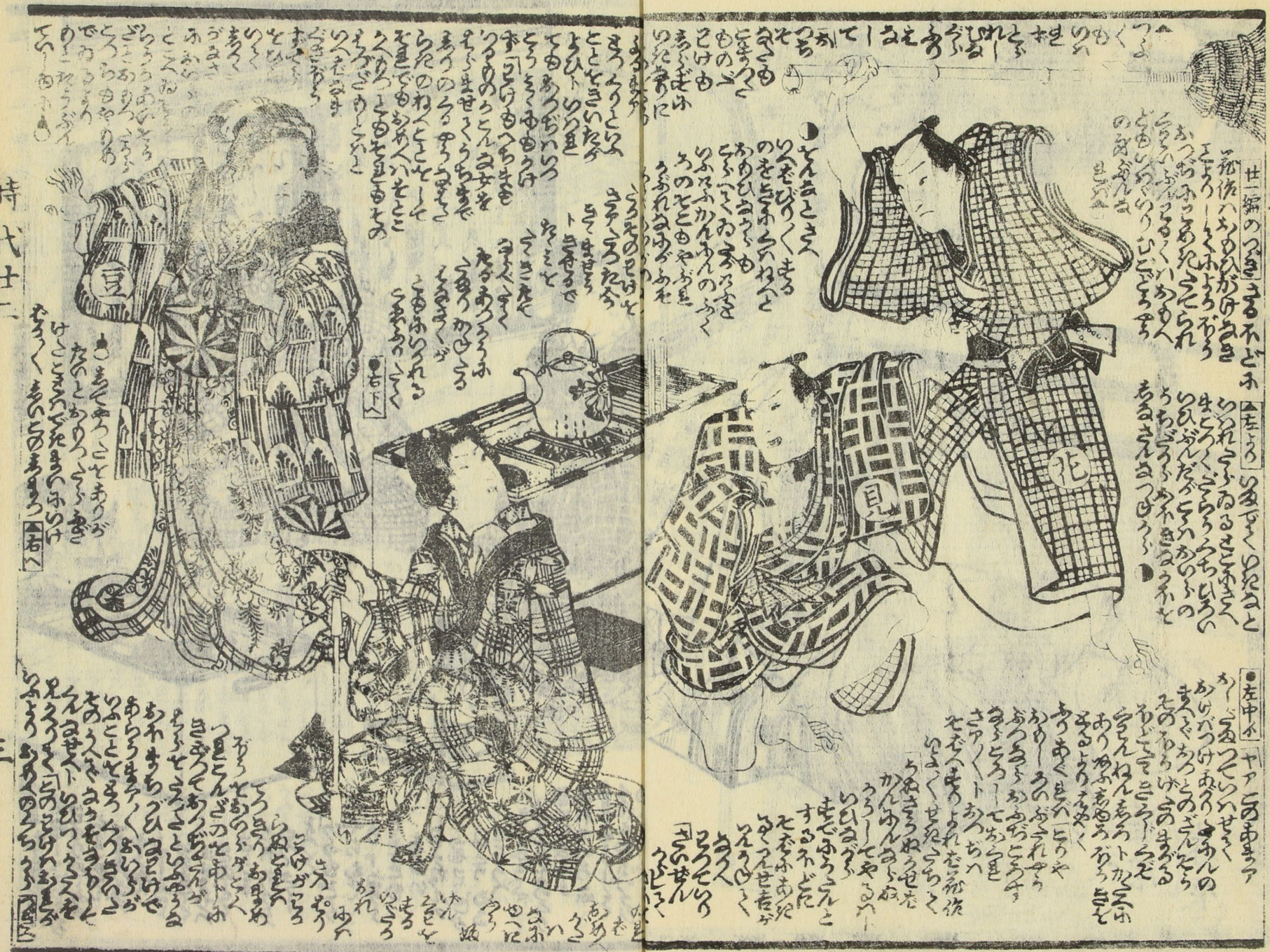
人[illegible]と言ふ[illegible]へ[illegible]や偽盗賊の真似をせんとて
[illegible]ば東西を窺ふ[illegible]ば誰の倫見と言ざるべき
[illegible]は[illegible]の屬みて[illegible]うと聞ごろも冊子ハ編めど
花月[illegible]の小説者流年経る程は戯号さへ
[illegible]知らず迂[illegible]れど僅は傳のまゝ社[illegible]
[illegible]句かるい知る者は花押も皆は庫中
そも試筆に優例の時代かゝるの嗣輯は序に

安政庚申稿成
万延辛酉歳市

為永春水識

梅素玄魚書

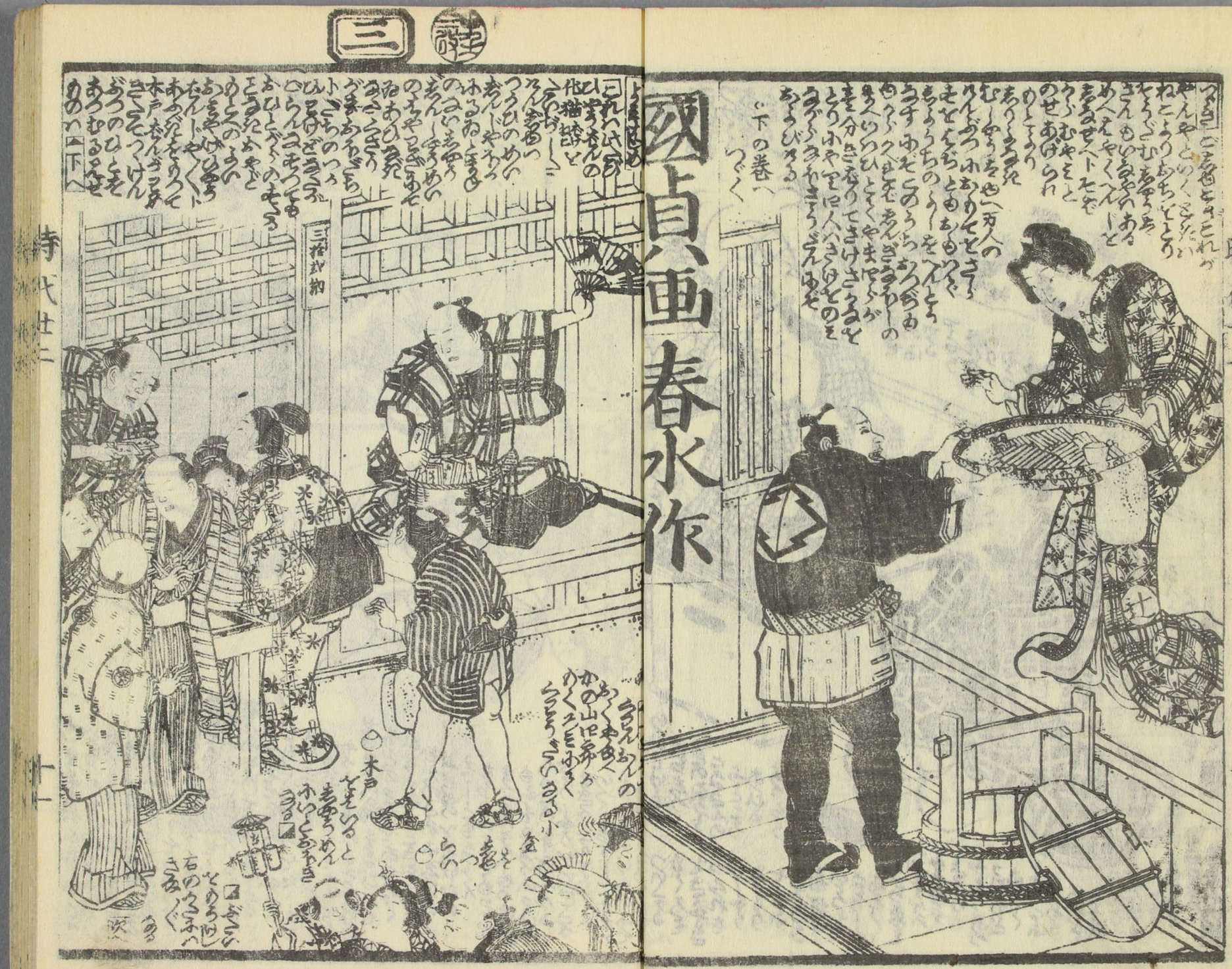
孌妾苅根
藤浪春辰

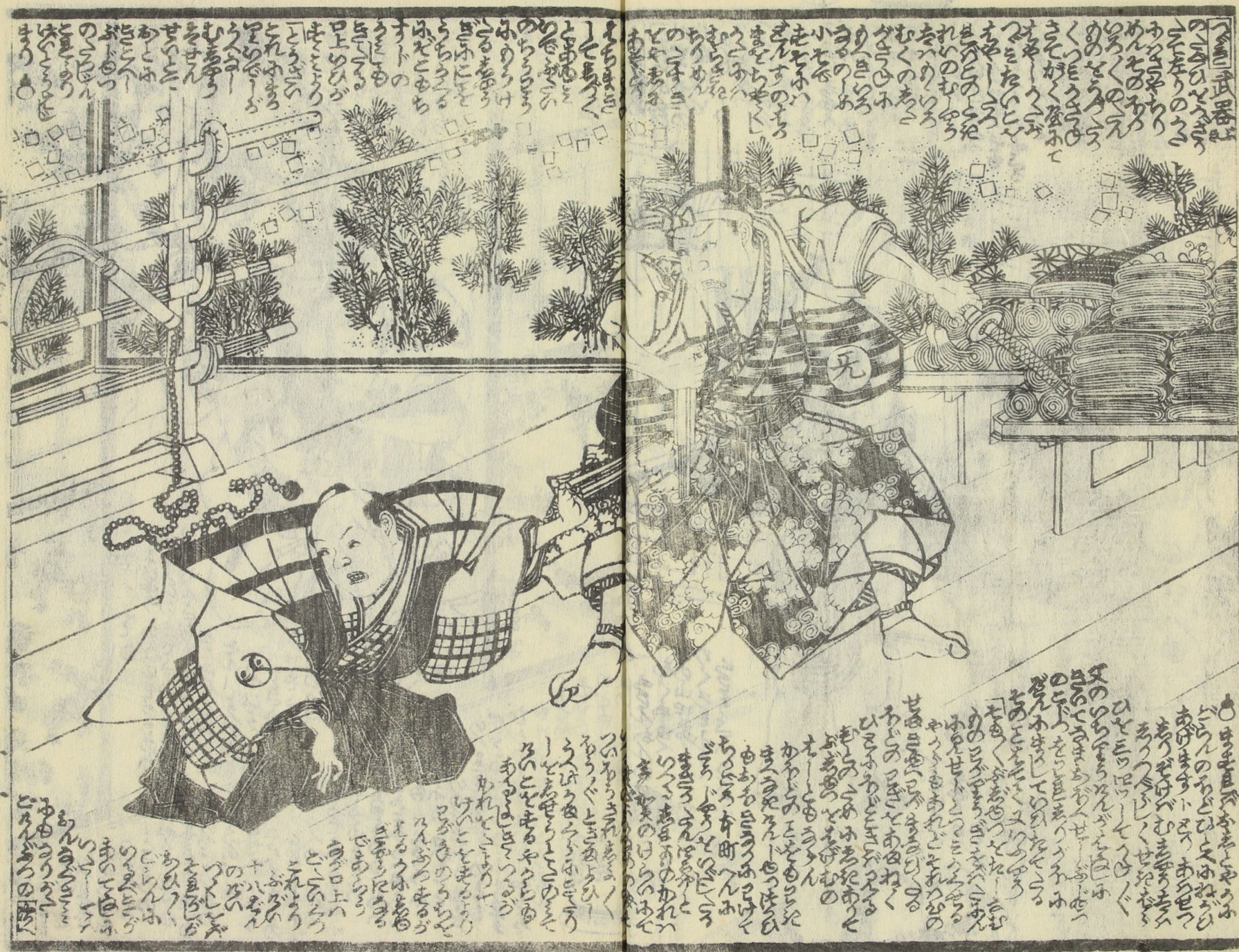


花
豆
見

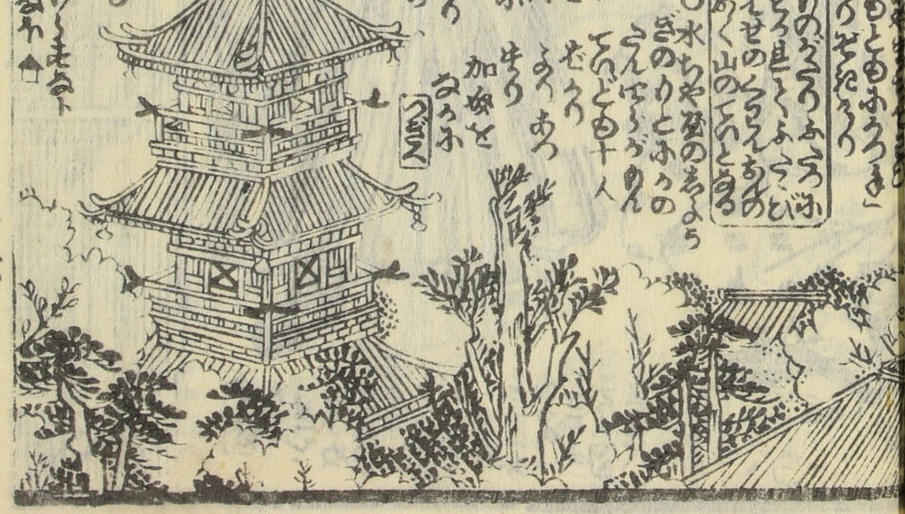
見
花
豆
元

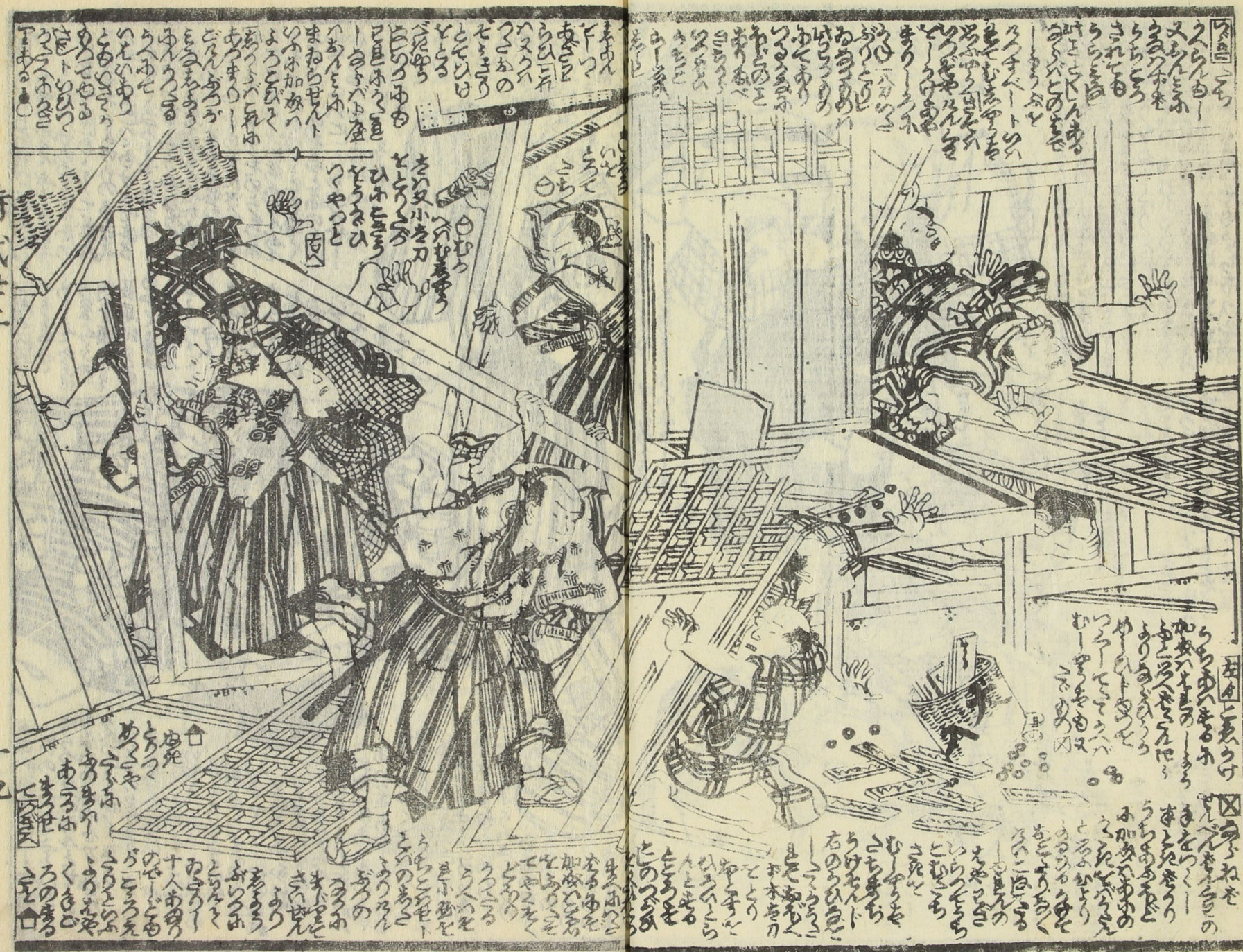
花
見
元
山


國貞画
春水作
つゞく
三
三枝式部
木戸
石のうへ



丹
老
カロ





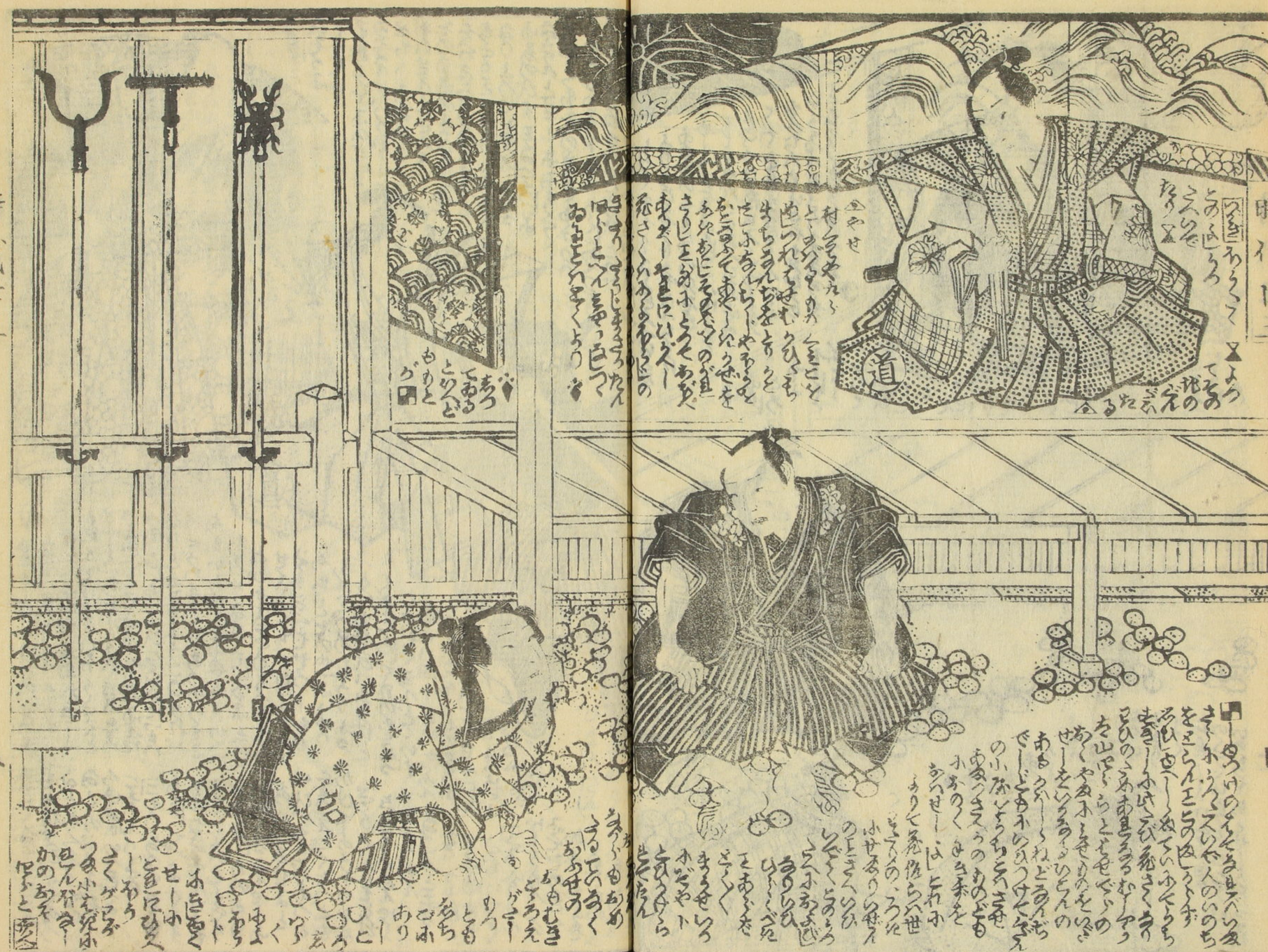
孫康が雪を聚め、車胤が嚢ふ螢を盛ア〜、夜学の窓ふ似て似ざれど、嚴冬の寒ふも、三伏の暑きふも、團炭を懐き、蚊遣をふ焚し、世間の人乃寝まづまるまで、眼ハ油皿の如く見ひらき、灯心ふ痩腕ふとりふて、何様ゆゑ化そのめけど、千變万化の自在を得ばこそ、條ふる野語を、述つ綴もる夜業の丈ル、憶ひも雪程積らぬど、螢の尻ゐど光もふ復一帙ふ下染の墨さへのまず乾ねを梓ふ上ル〜笑ひ備ふ

万延二酉の春

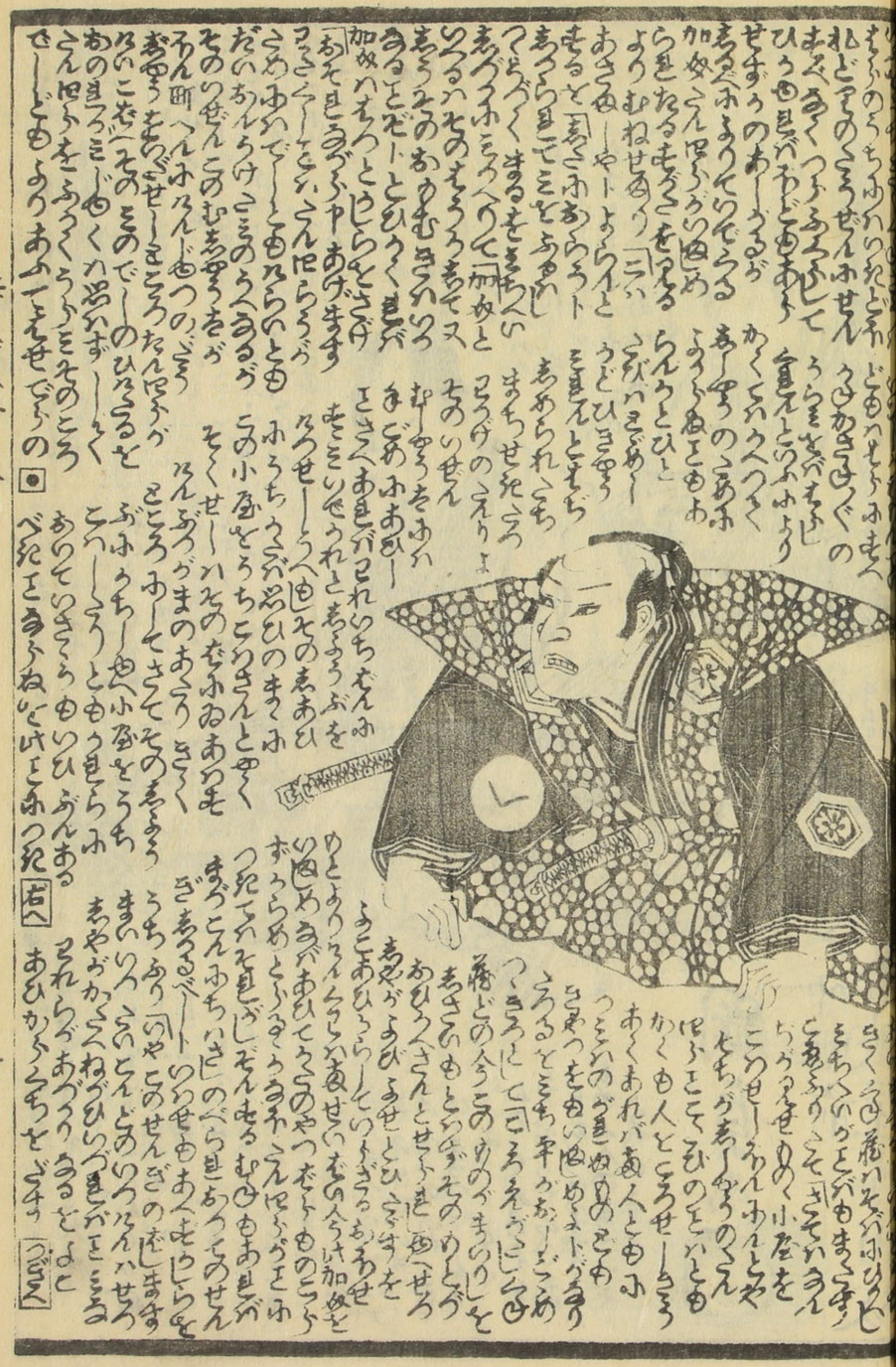
為永春水誌

佐原道平
道平が渾家若芝
間詩久根藏

明代物語
多賀正方の
令妹
愛媛
所
窓
の
戯
之
体
雛
遊
淫


道

道



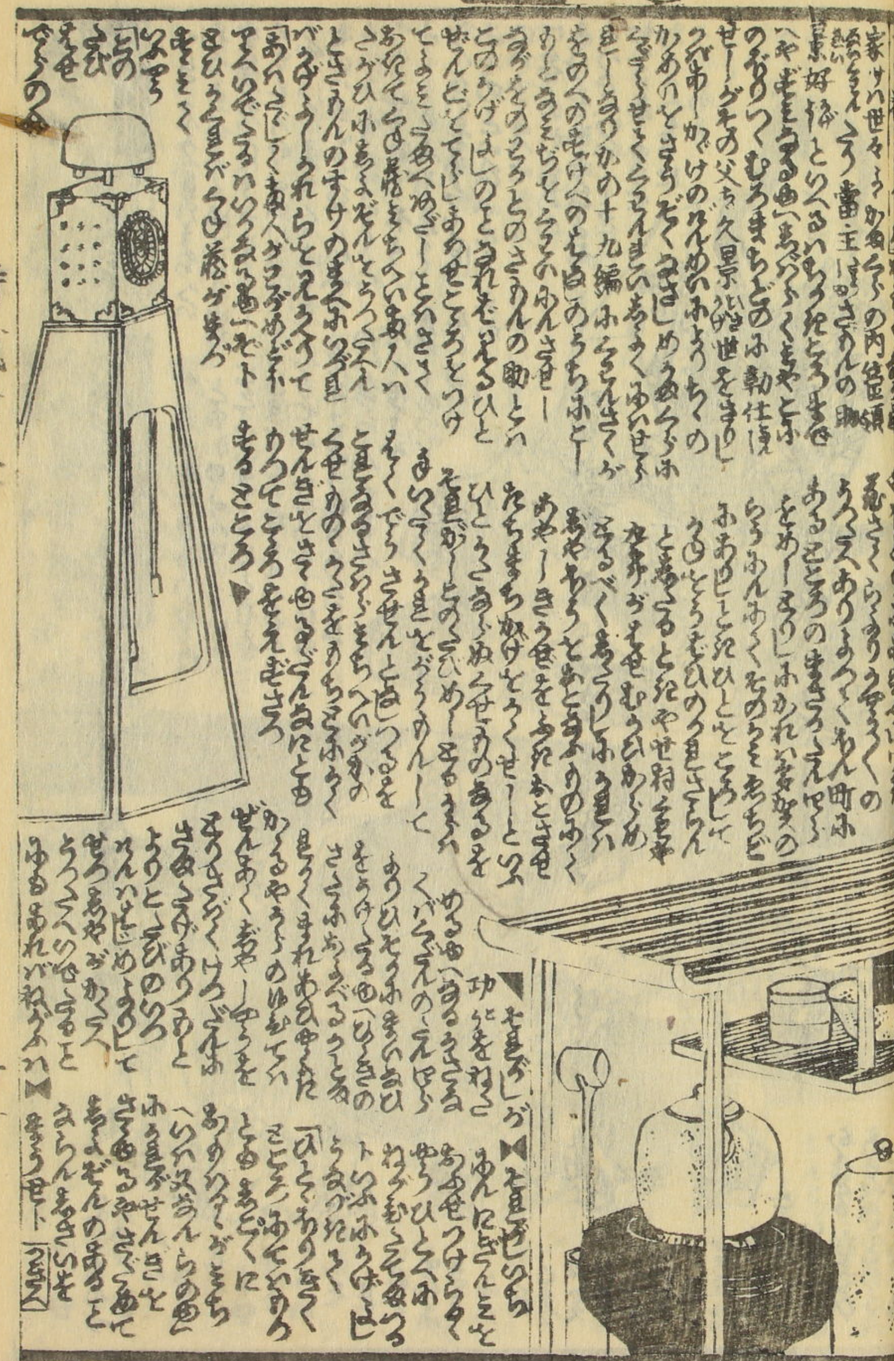
為永春水作

日仁七三

◑せらるゝ　あきないのとうず
ぐん　ぎゆうせんをのとれわへ
つふかいうあやういあちらふこど
あめさまとのいくどおくせんば
きちへのがさあらば
こまこのう　ゆうかんが
とめふこせん　へまろう
のそこうれのあるよぞえと
まきしあがイうそまふ
つれくあるかいもや
日のあまでふくふれ
こまだまろうこんにふい
ひとやふひれのまこ
ものあるのあどの
ひーまべけーあく
いさもべーとく
おのくそのをを
ゆうぞうををを
きちへのつまう人い
あるくんのまくふぞ
こちいをくる

◑めいまくふさらぐん
いさーとうをを
さイトいふふくる
ふふくせて
こうやあるろ
ものとうあるくれふねうい
つくるこうふかれも
ものあるくんぶ
ろうさのぐんの
さあこけ◑

◑せらるゝ　あきないのとうず
ぐん　ぎゆうせんをのとれわへ
つふかいうあやういあちらふこど
あめさまとのいくどおくせんば
きちへのがさあらば
こまこのう　ゆうかんが
とめふこせん　へまろう
のそこうれのあるよぞえと
まきしあがイうそまふ
つれくあるかいもや
日のあまでふくふれ
こまだまろうこんにふい
ひとやふひれのまこ
ものあるのあどの
ひーまべけーあく
いさもべーとく
おのくそのをを
ゆうぞうををを
きちへのつまう人い
あるくんのまくふぞ
こちいをくる

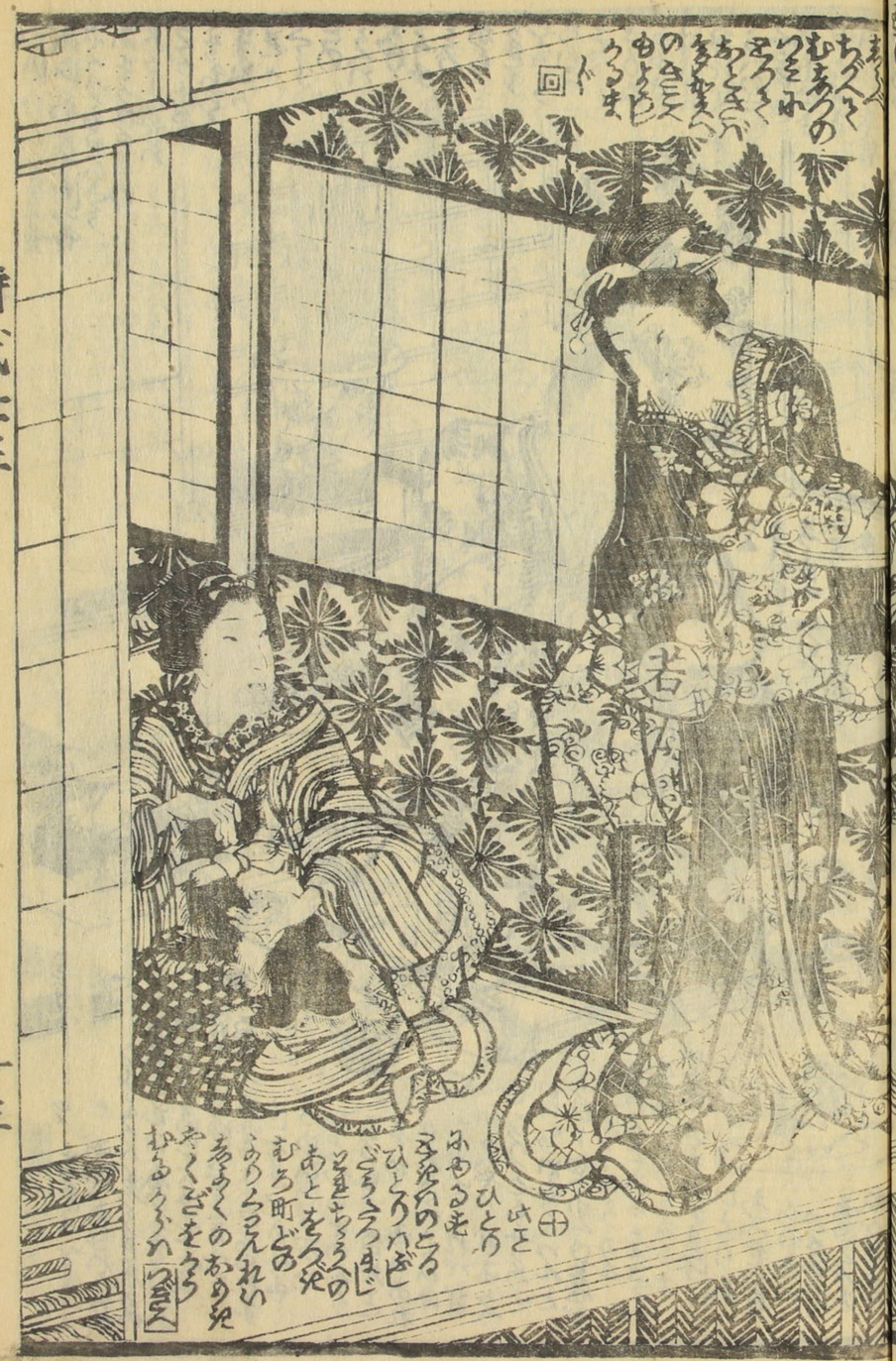


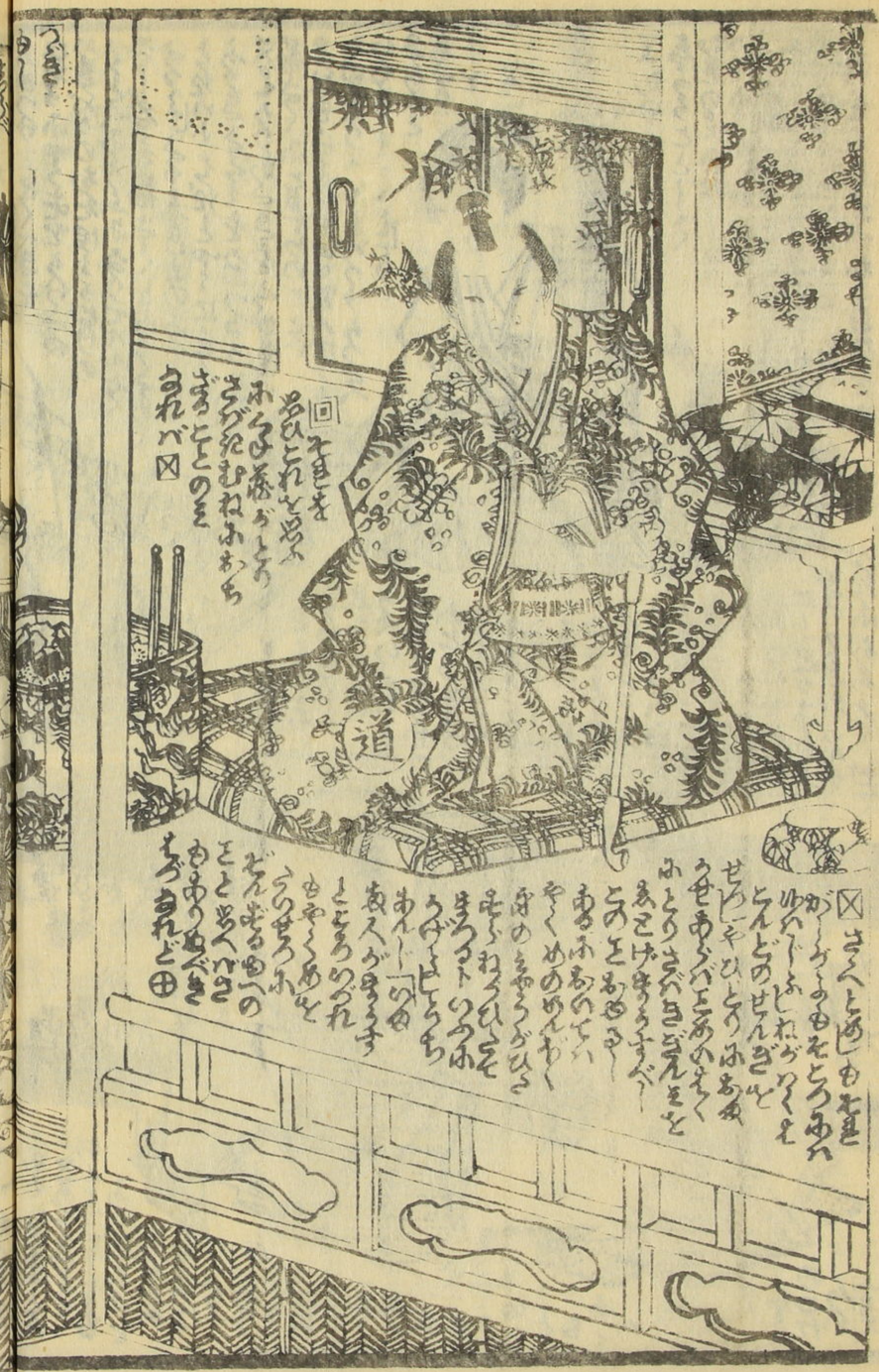
▶さまざまの　ゆんにどんとを　ちあをつけらく　やうひとくふ　わるむらそをる　トいふふうぶよ　うをのれく　ひとくりりをく　ことをふゆをいりろ　とるまるぐに　へいいんいるんらのあ　ふうまぶせんきを　さまるるやさぐあて　ちよぜんのあること　ゆるあればれうふい▶

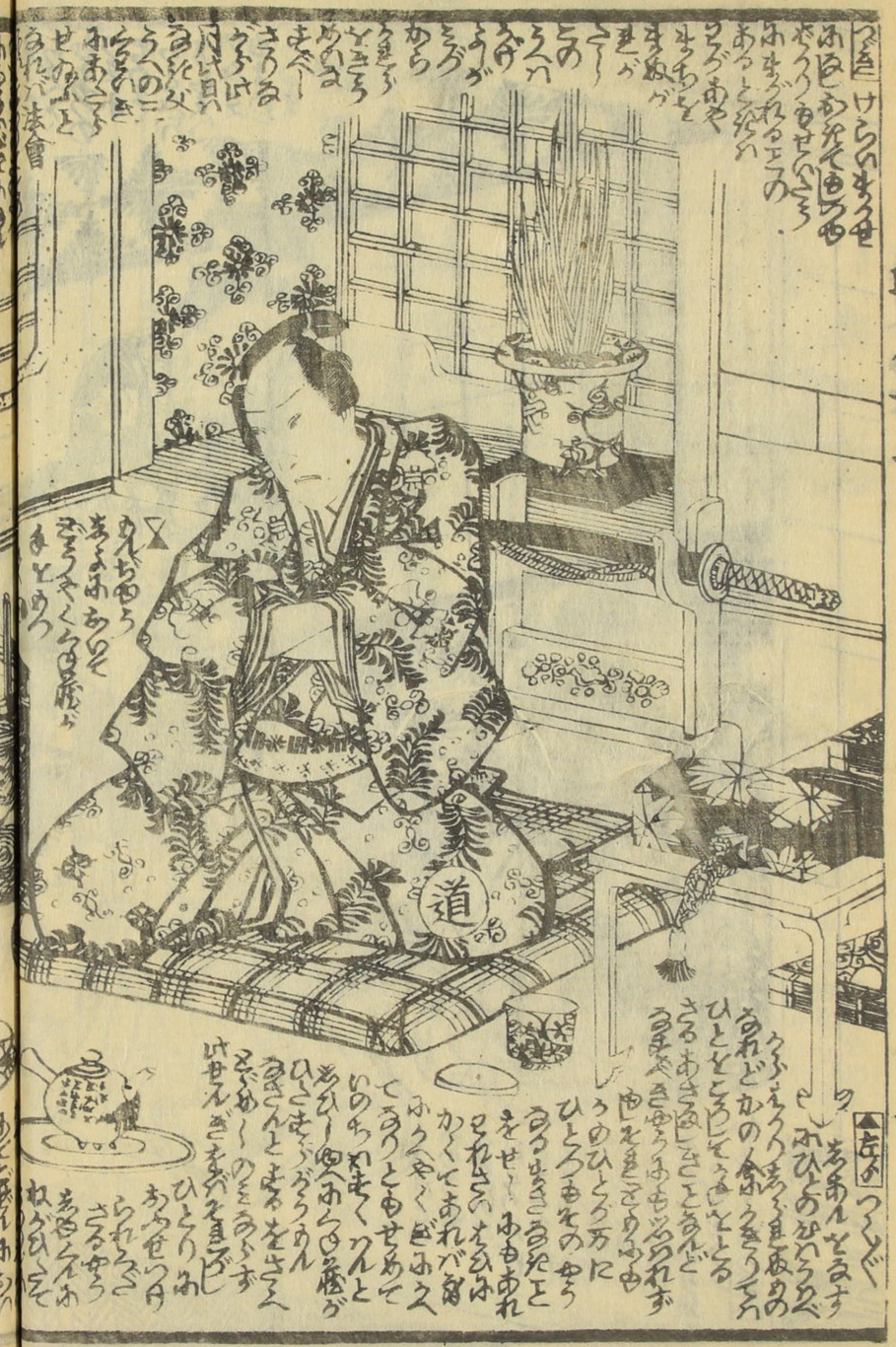
▶功とをれこ　くいぐんのえぼう　ありひとうふまのおひ　をうみくるゆ　ひときのさ　さふあちべるうと　まろくまれあんやまた　かくるやうーのゆむてい　ぜんあく　ぎゆーしをを　ろうさぐくけうぐれあ　さあこぶあうとー　ぶのいろ　ようとーぶのいろ　んいはじめよう　せろあやぎあくへ　ろうくへいをること　ゆるあればれうふい▶

▶さまざまの　ゆんにどんとを　ちあをつけらく　やうひとくふ　わるむらそをる　トいふふうぶよ　うをのれく　ひとくりりをく　ことをふゆをいりろ　とるまるぐに　へいいんいるんらのあ　ふうまぶせんきを　さまるるやさぐあて　ちよぜんのあること　ゆるあればれうふい▶

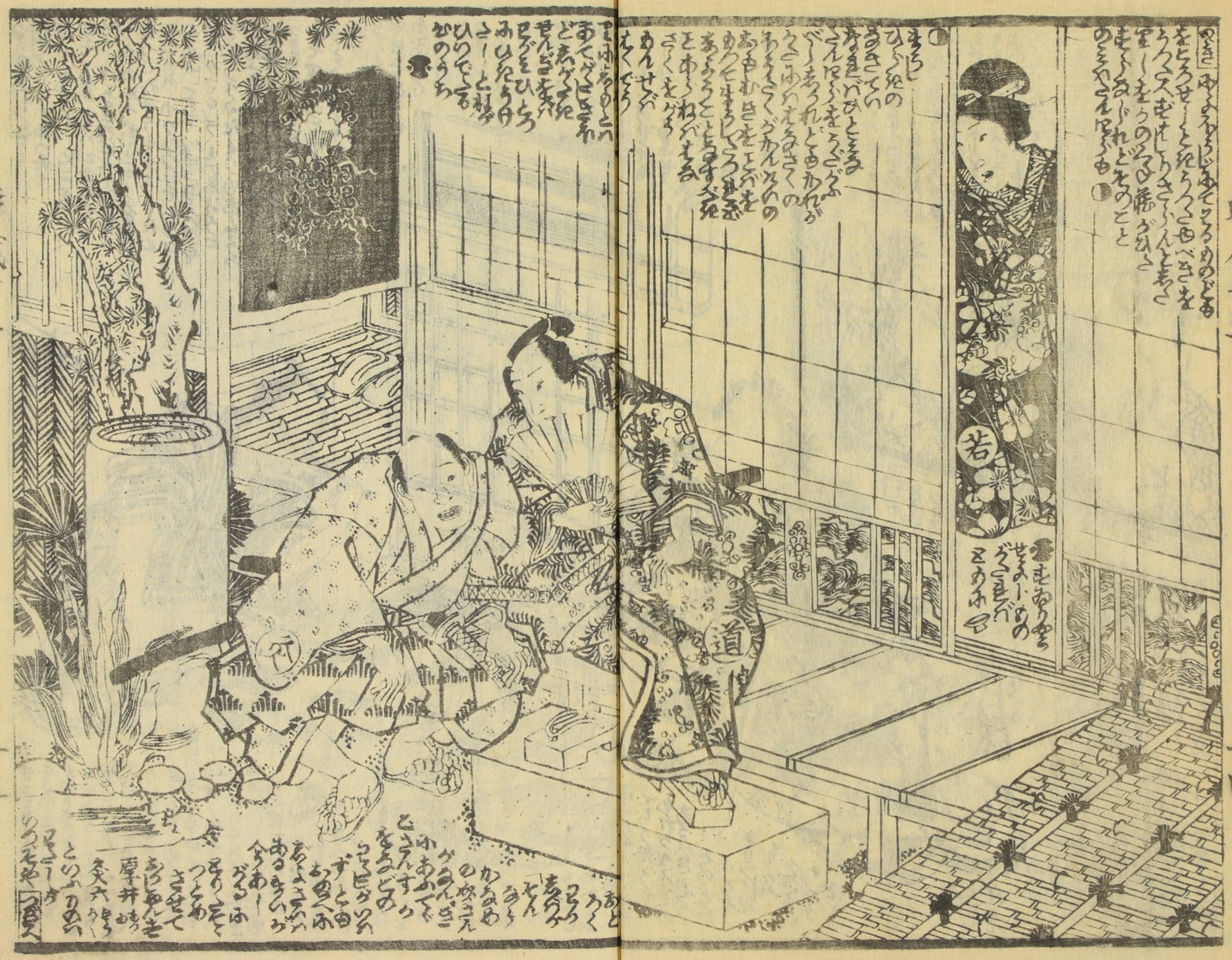
▶功とをれこ　くいぐんのえぼう　ありひとうふまのおひ　をうみくるゆ　ひときのさ　さふあちべるうと　まろくまれあんやまた　かくるやうーのゆむてい　ぜんあく　ぎゆーしをを　ろうさぐくけうぐれあ　さあこぶあうとー　ぶのいろ　ようとーぶのいろ　んいはじめよう　せろあやぎあくへ　ろうくへいをること　ゆるあればれうふい▶


若


道


道

若


若
道

花
丸
十
豆

加助滝姫離して丹四郎を救ひんと祈る吏次編ふ委

為永春水作歌川國貞画

一

后羿不死の薬を西王母ふ請よ。その妻嫦娥。竊ぐこと能食ひ。月宮ふ入て。化して蟾蜍となる。又素娥と號もて成語考天文の部の注ふ見也。今這口画ふ吉千代ゞ。嫦娥ふ誘ふ〻の圖ハ。復是嗣輯の槻涙るゞ〻。本編の文意とハ。さゝゞ〻月と團魚ゞ。飛離をる画様ふあるれど。折も仲秋望の夜ふ。此一帙を編果なる。因もあるべ引上く。僅ふ巻首を塞ぐ。

干時萬延元庚申年桐月
稿成同二辛酉獻歳發兌

為永春水誌

時代七四
明仁九四

月宮の嫦娥良夜ふ
吉千代丈誘引圖

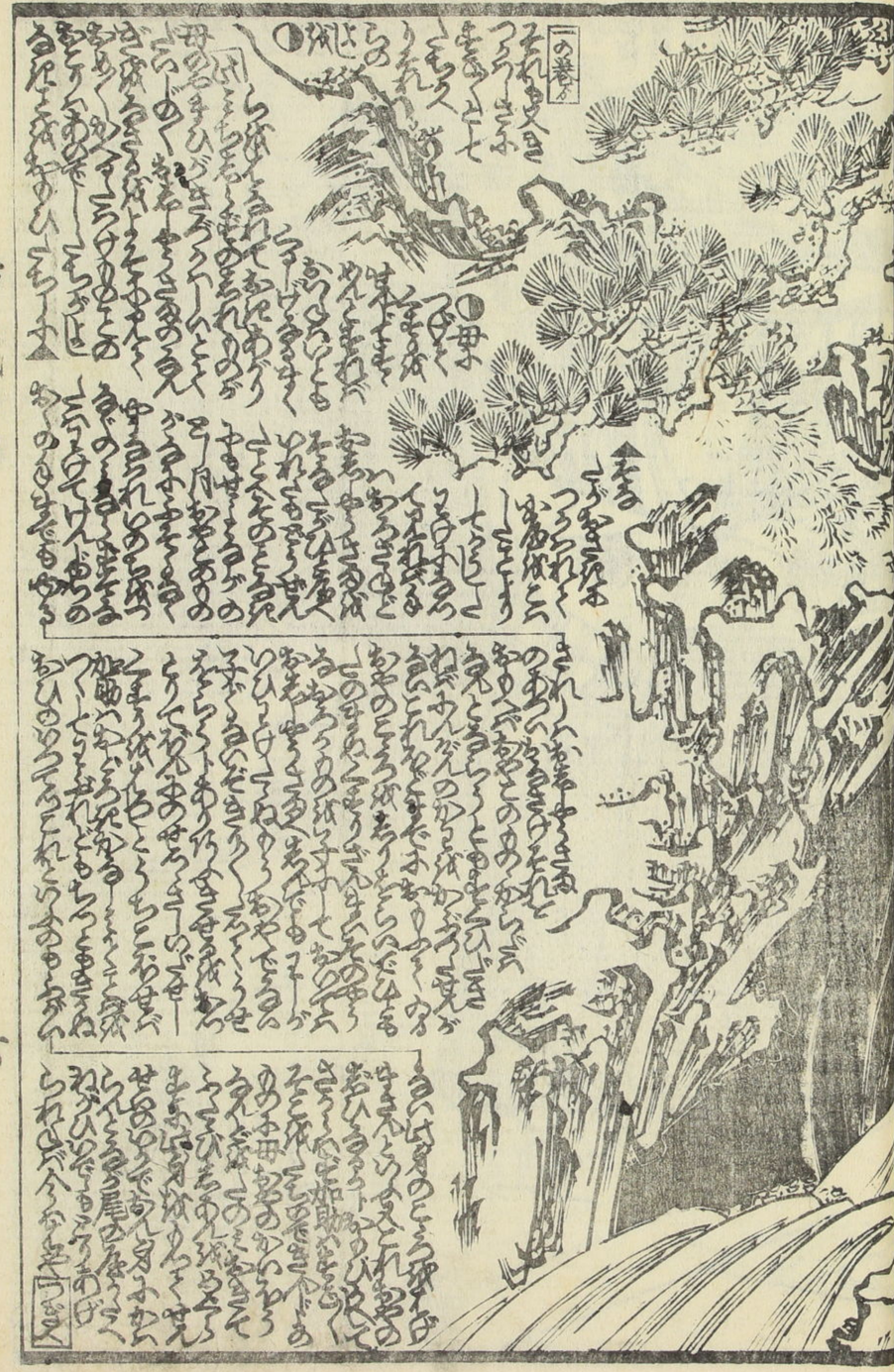
物語れば更ける

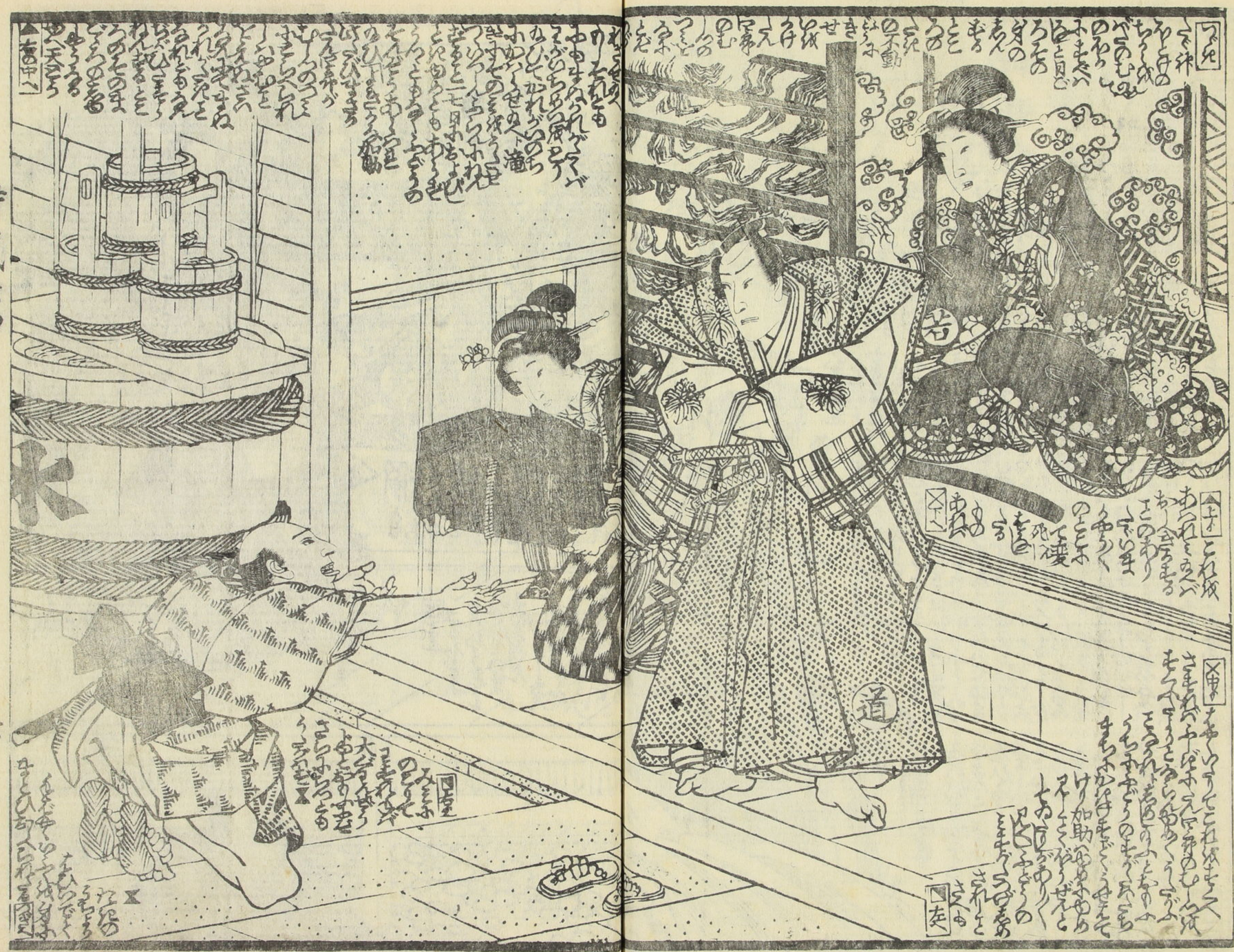
老

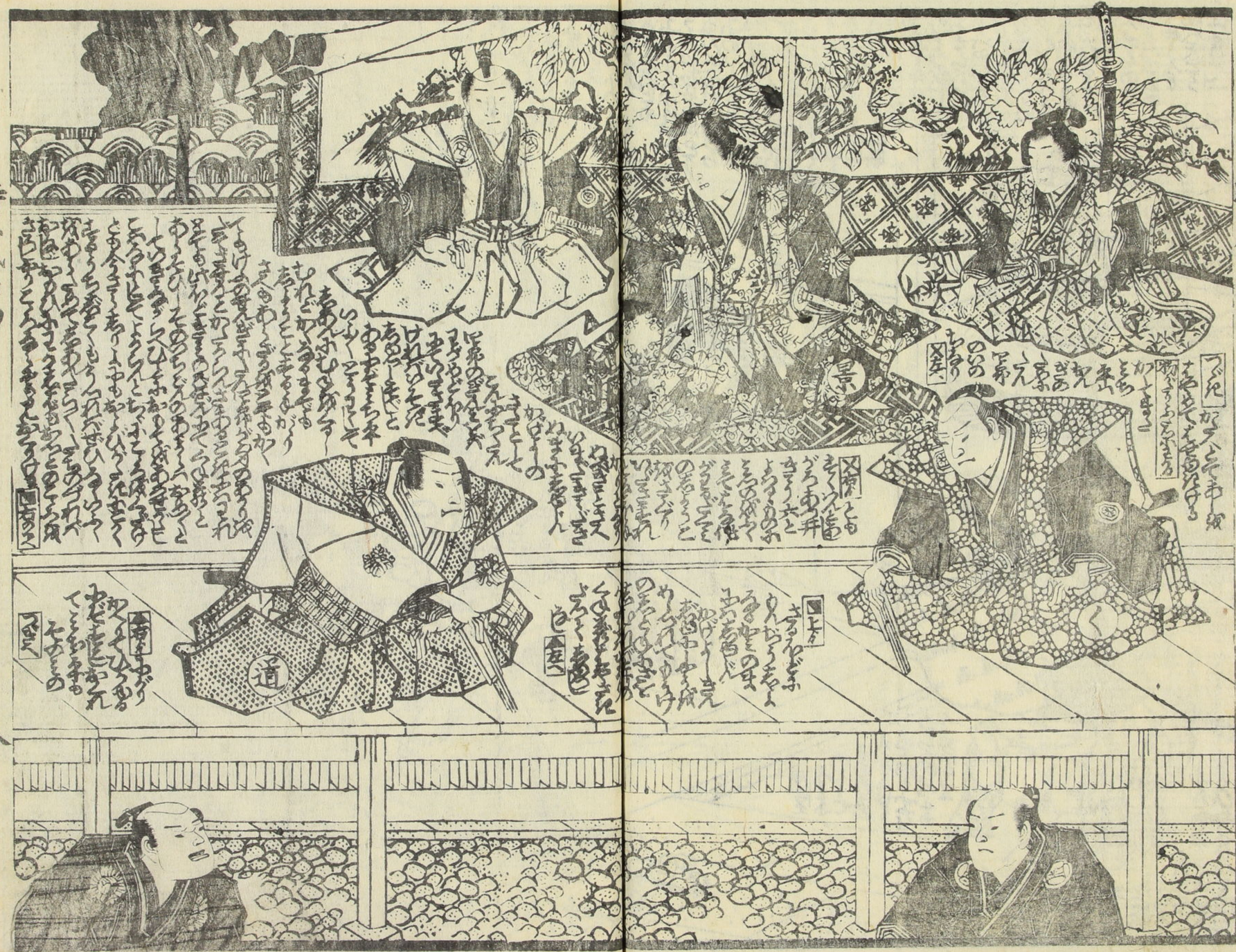
加

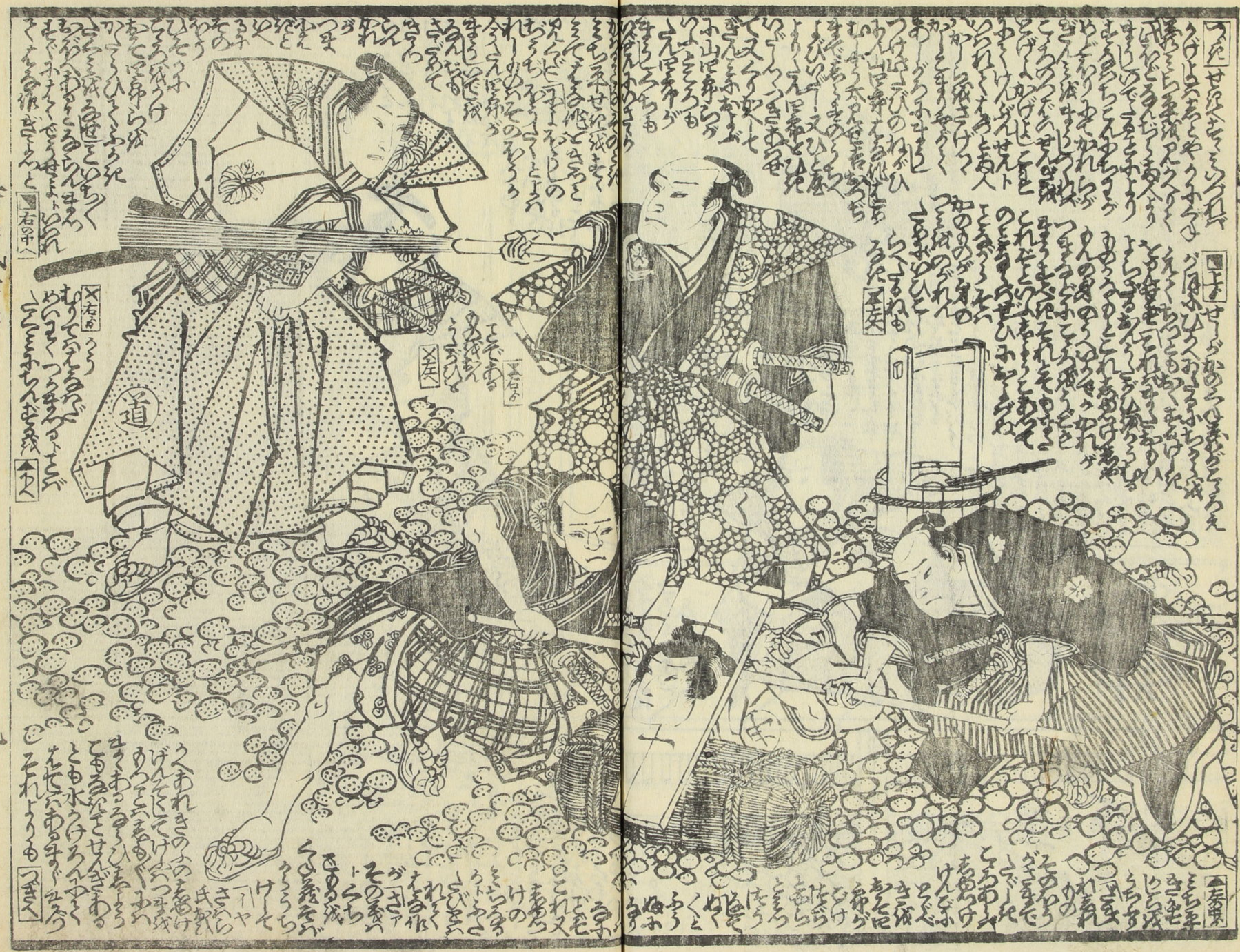
加

加

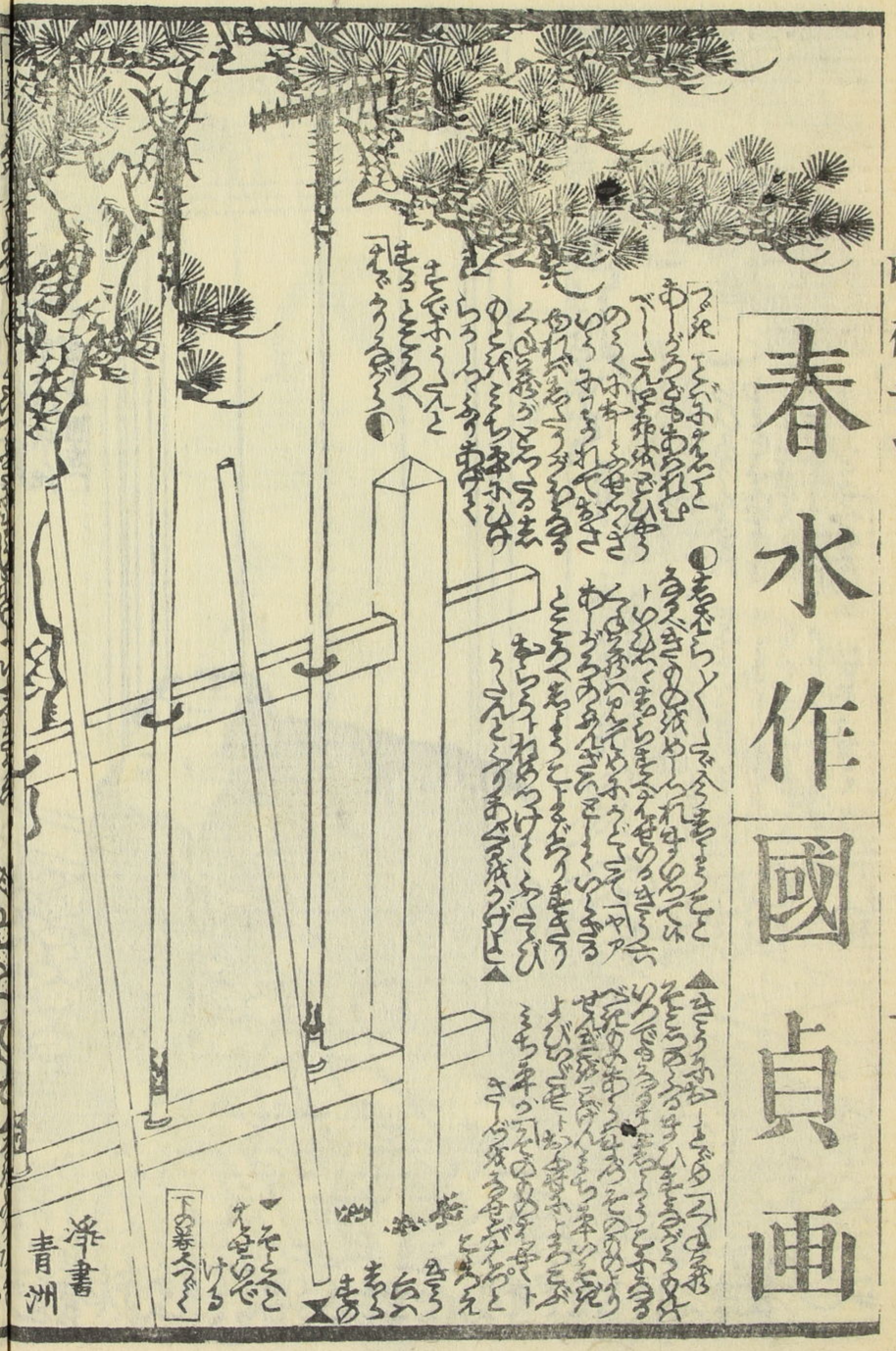



道
右




道

道
右


春水作
國貞画
洋書
青洲

三

元
十
花
是
豆

道

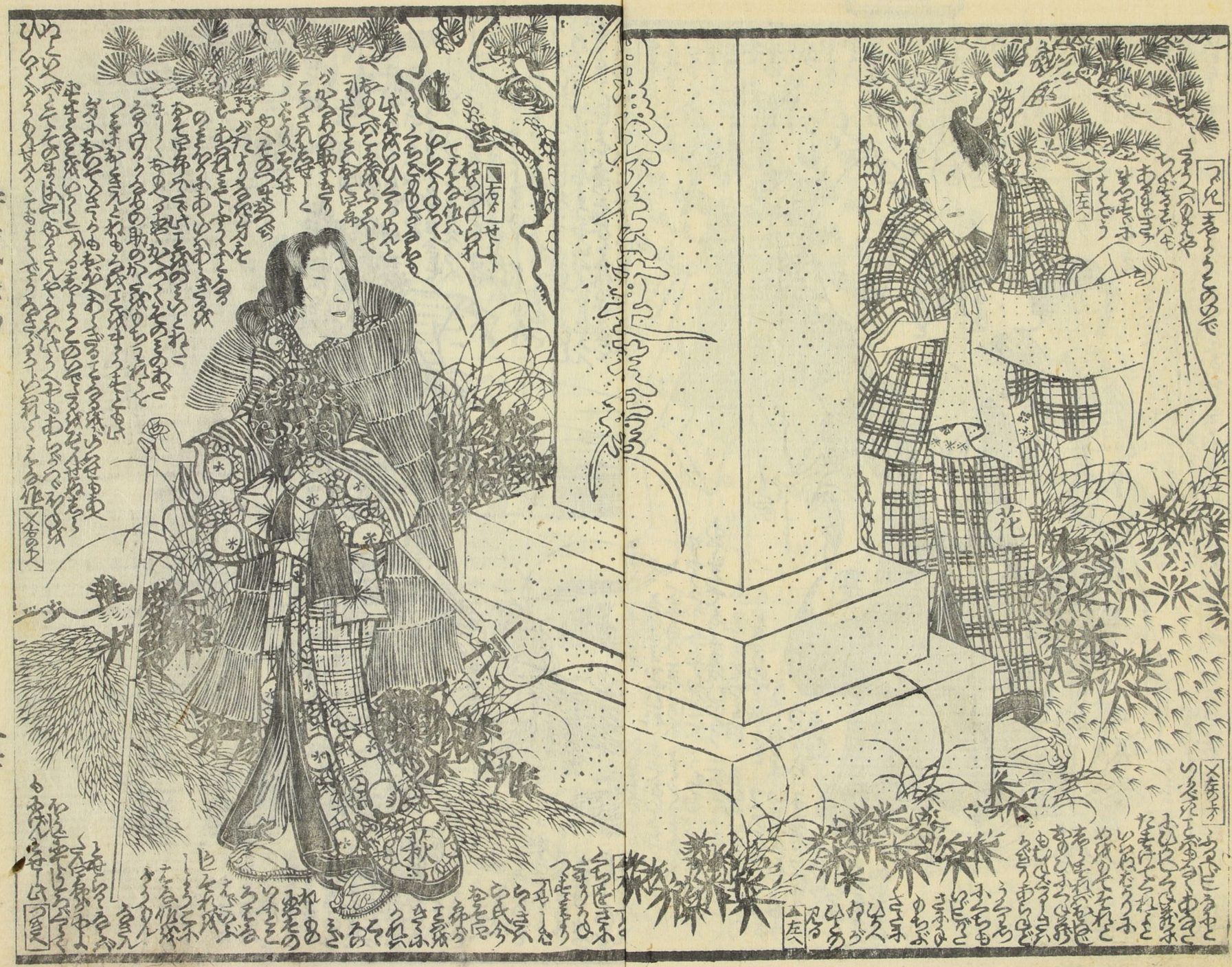
辻
京
花

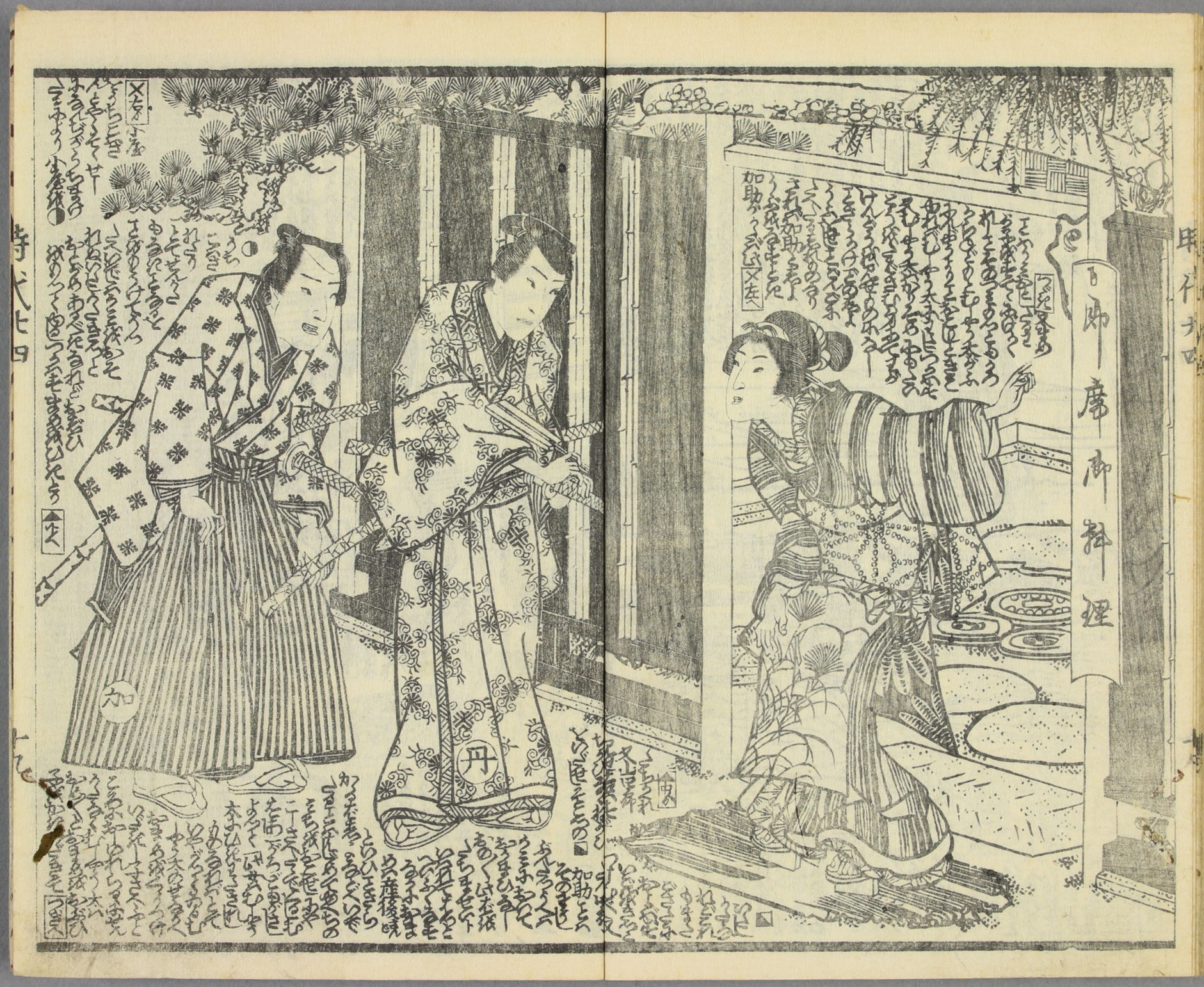
炎
花

道

幻中幻理外理
圖出後輯餘意
時代七四

豆
是
辻
元


花
秋


仲席御料理
文左
加助
丹

丹
加
道
茶

烏永春水作　歌川國貞画

淨書　箕田青洲

風流繪半切

越前奉書　御進物名入色紙伊達好み書簡

伊豫奉書　仕立会入下絵に半切上の名俳句

新製　白木もの

稽古用半切　数品

お流儀半切

新風　智恵かるた

半切　摺文箱

新板双六類品々

奉書摺新板

東子代紙

東海道

清進物

好み書簡

新板　摺文箱

入摺文箱

時代加ニ見
廿三編

為永春水作
歌川國貞画

若林堂梓